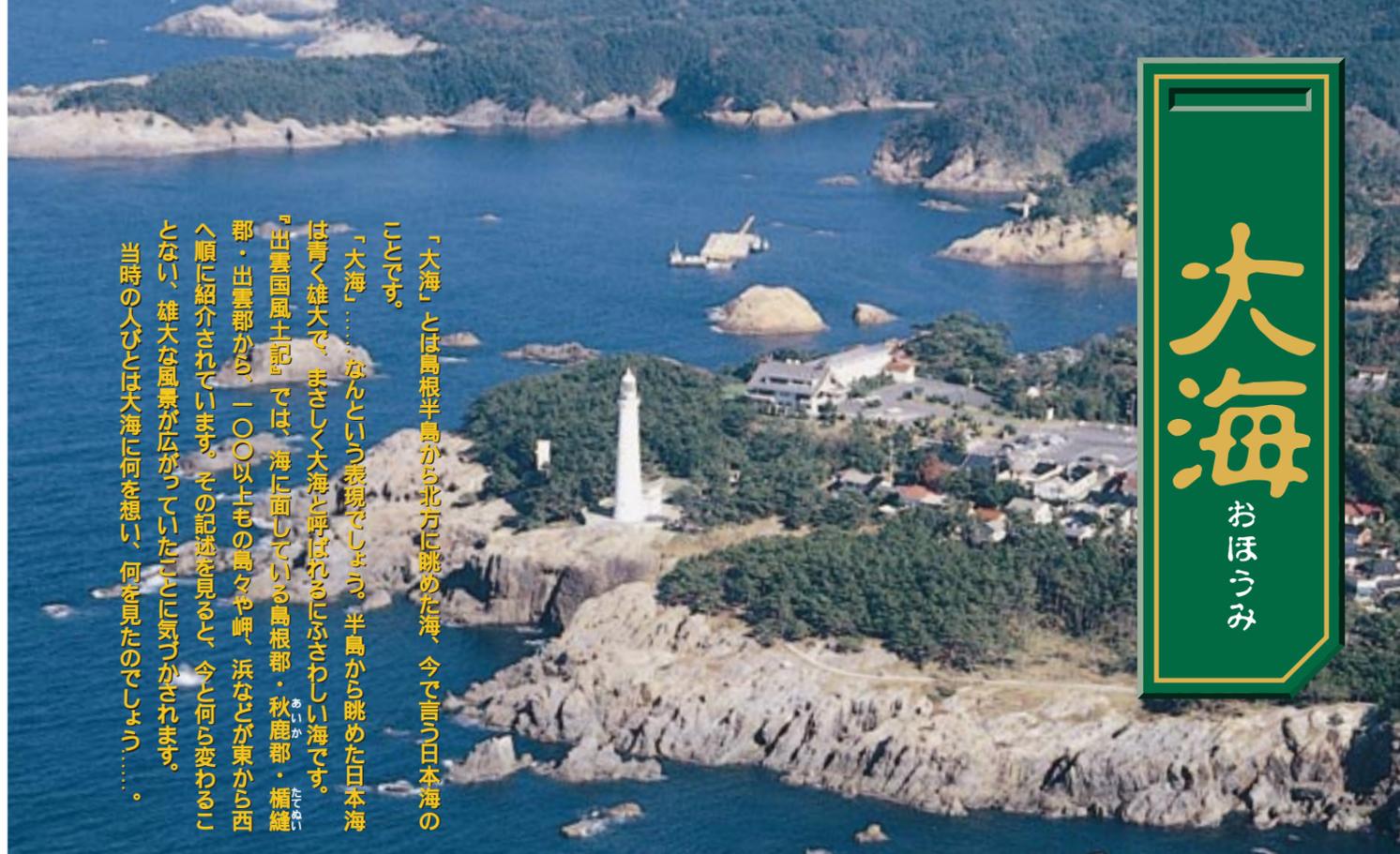


# 大海

おぼろみ

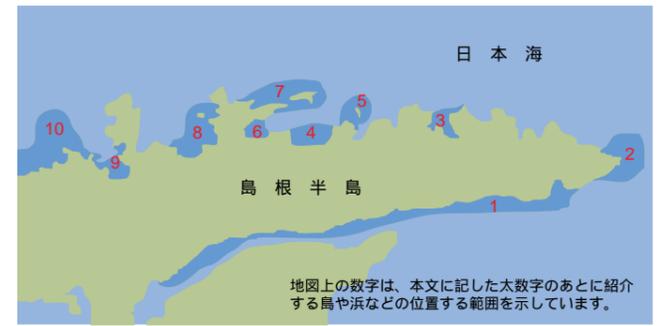


日御碕

「大海」とは島根半島から北方に眺めた海、今で言う日本海の「うみ」。  
 「大海」……なんとという表現でしょう。半島から眺めた日本海は青く雄大で、まさしく大海と呼ばれたにふさわしい海です。  
 『出雲国風土記』では、海に面している島根郡・秋鹿郡・橋縫郡・出雲郡から、一〇〇以上の島々や岬、浜などが東から西へ順に紹介されています。その記述を見ると、今と何ら変わるような雄大な風景が広がっていたことに気がかされます。  
 当時の人びとは大海に何を想い、何を見たのでしょうか……。



## 島根郡



地図上の数字は、本文に記した太数字のあとで紹介する島や浜などの位置する範囲を示しています。

1 鯉石嶋。海藻生へり。大嶋は美保関町中村南方にあったと考えられるが、いずれも今は沈下したと思われる。

宇由比湾。長さ八十歩あり。志毗魚を捕る。美保関町の宇井浜で、長さは一四三メートル。シビとはマグロ



このことで、当時このあたりでは、マゴ口が採れていたらしい。  
 美保関。長さ二百六十歩あり。西に神社あり。北に百姓の家あり。志毗魚を捕る。  
 現在の美保関町美保関にあたり、長さは二五八メートル。西方の神社と社のこと。



美保関町の福浦にあたり、長さは一四三メートル。

澹由比湾。長さ五十歩あり。志毗魚を捕る。



美保関町の長浜にあたり、長さは八九メートル。



### 2

美保関町の海崎。長さは一〇七メートル。  
 加努夜湾。長さ六十歩あり。志毗魚を捕る。  
 現在、灯台ビュッフェのある地藏崎は絶壁で、周りは今も同じ。遊歩道が整備され、天気の良い展望台から隠岐の島が望める。



等々嶋。地蔵崎の東北約三キロの海中に見える、沖の御前島のこと。等々とは、発音とあり動物のアシカのこと。当時、この島はアシカが棲息していたらしい。当時の人びとがアシカを見てどう思ったのかを考えると、なんと楽しくなる。

土嶋は、地蔵崎から東北二四〇メートルに浮かぶ、地の御前島のこと。

### 3

「磯」とは、岸が岩石と意味。これらの島々は地蔵崎の展望台から見下ろせる。



向こうが沖の御前島。手前が地の御前島

久毛等浦。長さ二百歩あり。東より西に行く。十の船泊つへし。  
 美保関町の雲津浦のこと。長さ一七八メートルある「浦」とは海辺の良港を指すと思われ、この浦には一〇艘の船が船泊できたらしい。このほか三カ所の港が紹介されている。

### 4

這田湾。長さ二百歩あり。比佐嶋。紫菜・海藻生へり。  
 這田湾は美保関町法田の浜にあたる。長さは三五八メートルある。



### 5

長嶋。紫菜・海藻生へり。比賣嶋。磯なり。結嶋門嶋。周りに三十歩、高さ一十丈あり。松・薺頭蒿・都波あり。  
 長嶋は法田湾口の松島のこと。今もこのあたりではノリやワカメが採れる。比賣嶋は同湾の松島の北方の市目島、結嶋門嶋は同湾口の青木島にあたる。周囲一・一二二キロ、高さ三〇メートルとあるが、今もほぼ同じ。松も生えている。「嶋門」とは島の間の海峡で、船の通路という意味。

### 6

美保関町七類浦。長さは三九二メートル。南の神社とは現在の喜多神社のこと。この湾はかなり広く、現在は隠岐航路の基点として有名。当時も三〇艘の船が停泊できる港だったようだ。



### 7

御前小嶋。磯なり。久宇嶋。周りに三十歩、高さ七丈あり。椿・椎・白朮・小竹・薺頭蒿・都波・茅等あり。加多比嶋。磯なり。船嶋。磯なり。屋嶋。周りに二百歩、高さ一十丈あり。



七類湾北方の島々

### 8

美保関町の玉江浦。長さは三二一メートル。現在では惣津湾や笹子湾など、いくつかの湾に分かれている。「碁石」とは現在と同じく碁碁で使う石を指し、今でも玉江浦の浜辺に打ち寄せられる黒色頁岩のこと。当時の人も碁碁を楽しんだらしい。「唐砥」とは砥石のこと。「美保関隕石」が落ちたものあたり。昔から石に縁がある浜だ。



惣津湾



笹子湾

粟嶋。周りに二百八十歩、高さ一十丈あり。松・芋・茅・都波あり。  
 美保関町惣津湾北方の青島。周囲四九九メートル、高さ三〇メートルとある。



黒嶋。海藻生へり。  
 雲津北方の小青島のことか。この地方には玄武岩が多く、その色をあわす黒や青が名に付く島が多い。



小青島



雲津



青木島



市目島



松島